

平成30年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

平成30年度の実践の概要

学 校 名	涌谷町立涌谷中学校	主な取組教科	全教科	
研 究 主 題	自ら学ぶ意欲を育てるための基礎・基本の定着 —授業の改善と学習習慣の定着を通して—		研究年次	1 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の実践と成果

学力向上の実践	成 果	評価の根拠
授業の改善に向けて 1 課題設定の工夫	課題設定に向けた実践が教材への理解と、「授業」をマネジメントする能力の育成につながった。	学校評価の項目において、「手立て1」が「有効だった」という回答数が8割を越えているため。
授業の改善に向けて 2 発問の吟味	発問の吟味により、課題を受け止め、自分の考えをもてる生徒が増えた。	学校評価の項目において、「手立て2」の有効性をほぼ全ての教員が実感しているため。
学習習慣の定着に向けて 3 適用問題の実施	実施に当たり、その授業で身に付けさせたい基礎・基本を明確にした授業づくりができた。	学校評価の項目において、「手立て3」が「有効だった」という回答数が7割を越えたため。
教育課程の工夫 補充学習の時間の充実	学年をさかのぼった補充の時間を設定することにより、基礎・基本の定着が図られた。	自らコース変更し、高いレベルに挑戦しようとする生徒もおり、意欲の高まりが見られる。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
課題 更なる授業の改善 要因 「対話による学び」を構築していく必要がある。	P D C Aサイクルに基づき、課題設定や発問を更に吟味するとともに、「対話による学び」の在り方について実践を通して取り組んでいく。
課題 計画的な学習習慣づくりに向けて 要因 自分で計画的に学習を進める力の育成が必要である。	定着するまで自主的な学習が繰り返せるように、更に適用問題を充実させていくとともに、目標を意識して計画を立てる場の充実を図っていく。

◆涌谷町立涌谷中学校 研究関連 URL :